

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	増 永 真 衣	学校名	伊達市立光陵中学校
教科（科目）・領域	数学科・道徳科	対象学年（人数）	3学年（82名）学級ごとに実施
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年 2月 （計2時間）		




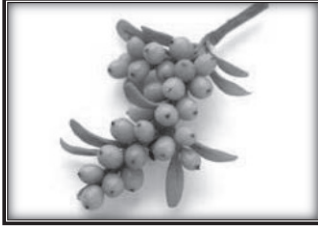
【実施概要】





1. 単元名（活動名）： 持続可能なまちづくりとは					
2. 実施する教科・領域： 数学科 道徳科	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： シミュレーション活動を通して、持続可能なまちづくりについて考えることができる。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	産業技術やノウハウが得られないことで、経済的な格差が生じてしまうことを理解できる。			
	②思考力、判断力、表現力等	キルギスの一村一品プロジェクトの取組を通して、その地域の風土や資源を生かすとともに、人々の思いに寄り添う支援の在り方を考えることができる。			
	③学びに向かう力、人間性等	持続可能なまちづくりの視点から、自分たちが住む伊達市のまちづくりについて考えることができる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 教師海外研修の大使館訪問にて「キルギスは発展途上国のイメージと違ったでしょう」との言葉が印象的であった。また、キルギス国内の地域格差についても驚かされた。これまで生徒がもっていた発展途上国のイメージとは異なる国と、その開発支援に関わる企業の取組について学ぶことを通して、持続可能なまちづくりについて考えていきたい。</p> <p>【単元の意義】 2学期に道徳科で教科書を用いて「本当に意味のある国際協力とは」を行い、「学校に行けないことによる負の連鎖」(JICA資料集)によるシミュレーション活動を行っている。生徒の発展途上国のイメージはアフリカや難民であったため、発展途上国とよばれる国にもさまざまな国があることを知り、国際理解を深めたい。また、自分たちが住む地域についても考えるきっかけとしたい。(SDG s 11 住み続けられるまちづくりを)</p> <p>【児童/生徒観】 海外に興味をもっている生徒もいるが、日常生活の中でグローバル化を実感する機会は少ないため、「国際協力(支援)＝募金」と考える生徒が多い。</p> <p>【指導観】 2学期の道徳科「本当に意味のある国際協力とは」と本単元において、SDG sのうち日本が達成している目標4(質の高い教育をみんなに)と目標9(産業と技術革新の基盤をつくろう)を取り上げることができる。</p>				

7. 単元計画 (全2時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など ※: JICA リソース 活用はここに記載
1	<p>【数学科】 これまでに学んだ図形の性質と作図の方法を理解できる。</p> <p>格差社会にならないためには、資源のみならず、産業技術やノウハウを生み出すことが必要であること理解できる。</p>	<p>定規やコンパスなど与えられる道具の条件に差があるグループ対抗の作図ゲームを行う。 ゲームの目的「作図をして製品をつくり、できるだけ早くたくさんのお金を稼ごう」</p> <p>作図するもの</p> <p>①3 cm、3 cm、3 cm の正三角形 ②3 cm、6 cm、$3\sqrt{3}$ cm の直角三角形 ③3 cm、3 cm、$3\sqrt{2}$ cm の直角二等辺三角形 ④面積が 3π cm² のおうぎ形 ⑤1 辺が 3 cm 以上の平行四辺形</p>	<p>SDG s 10 SDG s 15 SDG s 17</p>
2	<p>【道徳科】 (学びのテーマ) 持続可能なまちづくりのために、大切なことは何だろう。</p>	<p>「発展途上国」と呼ばれる国の中でも、都市部と地方で差があることを知る。</p> <p>地方の課題「地方に産業がない」ことで起こる負の連鎖について考える。</p> <p>キルギスの地方の産業へ支援をしている企業について取り上げる。</p>	<p>SDG s 9 SDG s 11</p>

8. 本時の展開（2時間目：道徳科）

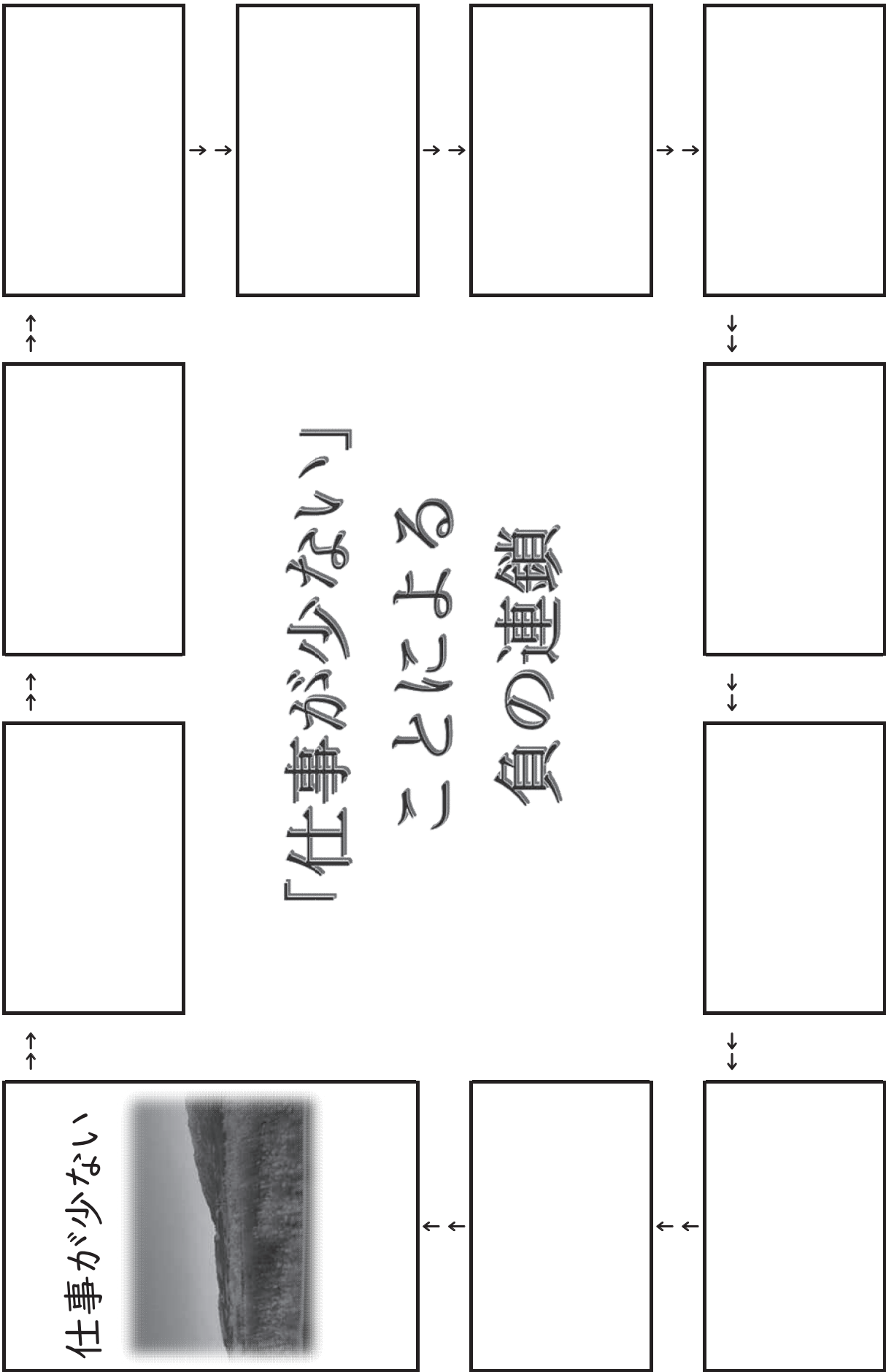
本時のねらい：持続可能なまちづくりのために、大切なことは何だろう。

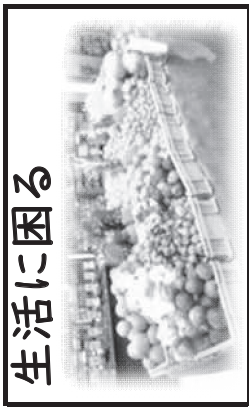
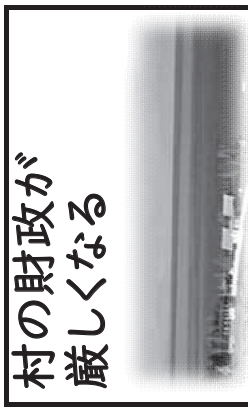
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学びのテーマを確認する。 • キルギスについて →地方には仕事が少ない。 	<p>キルギスの魅力が伝わるような写真を提示</p>	<p>パワーポイント</p>
<p>展開 (30分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 仕事が少ないことで起こる負の連鎖を考える。 (例) <div data-bbox="320 786 1393 1252" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <pre> graph TD A[仕事が少くない] --> B[収入が少ない] B --> C[生活に困る] C --> D[他国へ出稼ぎに行く] D --> E[村の労働人口が減る] E --> F[村の税収が減る] F --> G[村の財政が厳しくなる] G --> H[インフラが整備されなくなる] H --> I[流通が悪くなる] I --> J[産業が根付かない] J --> K[働く場所が少ない] K --> A L[産業が根付かない] --> M[流通が悪くなる] M --> N[インフラが整備されなくなる] N --> O[村の財政が厳しくなる] O --> P[村の税収が減る] P --> Q[村の労働人口が減る] Q --> R[他国へ出稼ぎに行く] R --> C </pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> • エジェの言葉を紹介 <div data-bbox="309 1361 794 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>昔は仕事がなく、ロシアへ出稼ぎに行っていましたが、今はキルギスで働くことができるようになりました。企業に感謝しています。</p> </div> <div data-bbox="794 1339 954 1563" style="text-align: center;">  </div> <p>◎負の連鎖を断ち切るために、効果的な取組を考える。</p>	<p>原因→結果となるようにする</p>	<p>カード</p>
	<p>キルギスと言えば…</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>①羊の写真</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>②湖の写真</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>③果実の写真</p>  </div> </div>		<p>パワーポイント</p> <p>各班に写真1枚</p>

<p>→写真をヒントに取組を考えて、発表、交流。 (予想される取組案)</p> <p>①フェルト製品 ②観光 ③ジャム</p> <p>・一村一品プロジェクトの紹介</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>フェルト製品</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ジャム</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>蜂蜜</p> </div> </div> <p>・エジェの言葉を紹介</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 250px;"> <p>私たちの今後の目標は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生産量を増やす 2. 品質の向上 3. 次の世代につなげるです。 </div>  </div>	<p>丁寧な作業をしていることを伝える</p>	<p>丁寧な作業をしていることを伝える</p>	<p>パワーポイント</p> <p>パワーポイント3は隠しておく</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>・伊達市のまちづくりに生かせることを考える。</p> <p>・本時の振り返り</p>	<p>伊達市に関わる写真を提示</p>	<p>パワーポイント</p>
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術やノウハウの有無で経済的な格差が生じることを理解できた。(①) ・その地域で暮らす人々の思いを尊重しながら、地域の資源の生かし方を考えることができた。(②) ・伊達市の特長や資源を生かしたまちづくりについて考えることができた。(③) <p style="text-align: right;">ワークシート及び授業での発言</p>			
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>・一村一品プロジェクトについて、視察とフェルト制作体験を行った。ひとつひとつの製品が丁寧な手作業によって作られていること、そこで働くエジェのインタビューをもとに授業を構築した。</p>			
<p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>・指導案や授業を通じて校内の先生方に見てもらうことで、実践を広めることとした。また、同行した朝日新聞記者の記事を教職員に紹介した。</p>			

【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・負の連鎖を断ち切るための効果的な取組を考えるとところから、自分事として考えるための発問。 ・支援＝募金、お金 にならないような問いかけ。
13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・負の連鎖を考える学習活動に時間がかかってしまった。効果的な取組を考える時間を確保したい。 ・効果的な取組を考える場面でのリソースが少なかった。キルギスの羊や湖などの写真を提示することで、生徒の考えが一般的なものから、より具体性のあるものになったのではないか。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・教育が受けられないことによる負の連鎖を学習しているため、既習事項をふまえて異なる側面から考えることができた。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・現地の人の言葉として紹介した「次の世代につなげること」を引用して、「次の世代につなげることのように、大切なことはとぎれないことだと思いました」という感想があった。 ・「協力される人達の思いを尊重することが大切だと思った」「班の人の意見を聞いて、“続けるために”を考えるとという意見に共感した」「この先、必要な技術を教えられるような技術者になりたい」「世界規模でなくても、まずは視野を広げて、たくさんの人と助け合いながら生きていこうと思った」などの感想があった。
16. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング授業の後、指導案を修正して他学級で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症による臨時休校のため、実施ができなかった。 ・令和2年7月、1学年の道徳科の授業（内容項目C-15、郷土の伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）において、持続可能なまちづくりのために地域の長や資源を生かすことに焦点をあてた授業を展開することができた。生徒の地域に対する思いや、持続可能なまちづくりのためのアイデアを、SDGsにもふれて学級通信で紹介をした。この授業では、キルギスについてふれることはできなかったが、教師海外研修の授業実践を通して、授業の作り方を改めて学ぶことができ、他の授業に生かせることに大きな喜びを感じた。



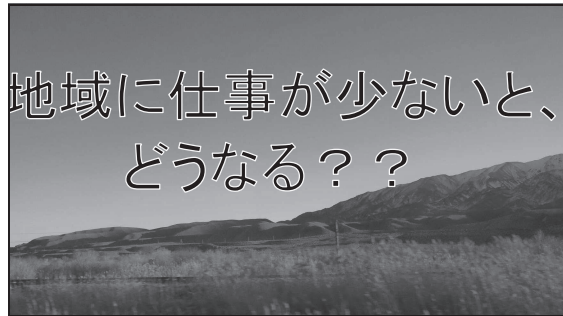




都市部と地方の格差が大きい

地方の課題の一つは…


地域(地元)に仕事が少ない！



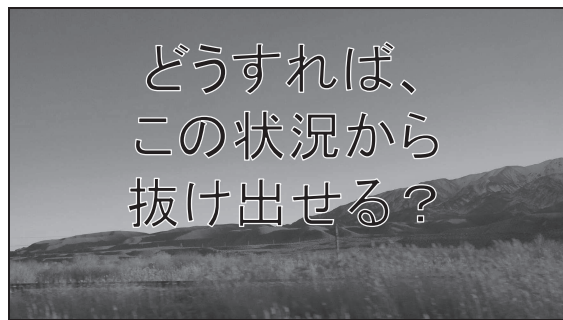
子どもが多く、子どもを育てるには女性も働かなければなりません。

でも、ここには仕事がなく、ロシアやカザフスタンに出稼ぎに行っていたの。

一村一品




アルマさん



今はキルギスで働くことができるようになって、

企業に本当に感謝しています。

一村一品



アルマさん



一村一品プロジェクト




地域の素材、技術を生かす



この仕事を始めた頃は、
暖かい部屋も、お湯も
なくて苦労したわ。

今は、仕事場が整って、
注文も増えて、失業する
心配がなくなりました。

一村一品




アルマさん

そして、何より家族と
一緒に暮らせることが幸せ。

ロシアで働いていた時の
賃金の方が高かったけれど、
家族が心配だったから。

一村一品



アルマさん

私たちの今後の目標は…

- ①生産量を増やす
- ②品質の向上
- ③次の世代につなげる

一村一品



アルマさん

伊達市のまちづくりに
生かせることはないだろうか？